



奈良県マスコットキャラクター
せんとくん
©NARA pref.

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）

Nara IDSC



今週の概要

■ 今週の感染症情報

■ 気になる話題 ～動物からうつる身近な感染症について③～ **NEW**



（調査週） 平成 23 年 第 23 週 6 月 6 日（月）～ 6 月 12 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	3.37	→～↓	→～↓	→	↓
2	水 痘	1.89	→	→～↓	→～↑	→～↑
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.37	→	→	→	→
4	伝染性紅斑	1.17	→～↑	→	↑	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.63	→～↑	↑	→～↑	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 163 例で、前週報告の 197 例から減少。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③伝染性紅斑、④A 群溶連菌咽頭炎⑤インフルエンザの順で前週と変わらず。インフルエンザの報告数（17 例）は、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（47 例）は、減少。水痘の報告数（27 例）も、減少。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（18 例）も、減少。伝染性紅斑の報告数（25 例）は、やや減少。なお、インフルエンザが、前週から上位 5 疾患に入ったままだった（奈良市 HC 管内；16 例、郡山 HC 管内；1 例）。奈良市 HC 管内基幹定点から、無菌性髄膜炎が 1 例（1～4 歳児）報告された。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかった。（村井 記）

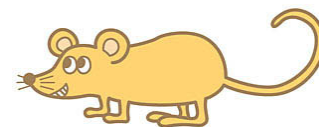
県中部地区概況 報告数は 150 例から 172 例と増加した。上位の 5 疾患（22 週→23 週）は、①感染性胃腸炎（76 例→65 例）、②水痘（16 例→33 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（21 例→23 例）、④咽頭結膜熱（8 例→15 例）、⑤伝染性紅斑（8 例→14 例）であった。インフルエンザの報告はなかった。眼科定点からは、流行性角結膜炎 1 例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

県南部地区概況 報告数（第 22 週→第 23 週）は 19 例→31 例と増加。報告のあった疾患は、①A 群溶連菌咽頭炎（6 例→7 例）、②感染性胃腸炎（5 例→6 例）、②水痘（5 例→6 例）、④突発性発疹（1 例→3 例）、④百日咳（0 例→3 例）、⑥伝染性紅斑（0 例→2 例）、⑥ヘルパンギーナ（0 例→2 例）、⑧咽頭結膜熱（0 例→1 例）、⑧手足口病（0 例→1 例）。（柳生 記）

【気になる話題 ～動物からうつる身近な感染症について③～】

〈ネズミからうつる病気〉

ネズミはヒトにとって身近な野生哺乳類の一つです。食中毒の原因となるサルモネラ菌を運んだり、ノミを体につけて感染症を媒介したり、衛生上問題のある動物です。ネズミからうつる病気として、“ペスト”、“腎症候性出血熱”などがあります。



・ペスト

ペスト菌による細菌感染症です。本来、ネズミなどのげっ歯類の感染症でノミやエアロゾルを介してヒトに感染します。症状や感染経路により「腺ペスト」、「敗血症型ペスト」および「肺ペスト」に分けられます。いずれも強い全身症状を示し、敗血症や肺炎で死にいたることもあります。日本には1899年にはじめて海外から輸入され流行もみられましたが、ネズミ駆除などの防御対策が功を奏し、1926年以降ペスト患者の報告はありません。とはいえ、世界には野生のげっ歯類にペストが持続的に感染している地域があり、開発にともないヒトへの感染機会が増加しています。ペストにはストレプトマイシンなどの抗菌薬がよく効き、早期に治療すれば回復可能です。また、ワクチンがあるので感染リスクのあるヒトは接種を受けることが勧められています。

・腎症候性出血熱

ハンタウイルスによっておこる病気です。この病気は風土病的なものでアジア・ユーラシア大陸に広く分布し、その地域に生息するげっ歯類、主に野生ネズミがウイルスを保有しています。感染しているネズミに症状はありませんが、尿などからウイルスを放出します。ネズミに咬まれたり、尿がヒトの傷口につくなどを原因としてハンタウイルスがヒトに侵入し、感染が成立します。ヒトからヒトへの感染はありません。日本では、1960年から70年代に大阪梅田地区で「梅田奇病」といわれた地域的な流行がありました。また、港湾地区のドブネズミは高率に感染していることが知られており注意が必要です。軽症例はかぜに似た症状で、蛋白尿や血尿がみられる程度ですが、重症例では血圧の低下、出血、腎不全などにより死亡することもあります。



感染予防の注意点

- ・ ペットのネズミはゲージなどに入れ、野生ネズミと接触させない。
- ・ 野生ネズミを駆除する。
- ・ 食品や使用後の調理器具は放置しない。
- ・ ペスト発生地域への渡航前にワクチンを接種する。

(感染症情報センター 記)